

発刊にあたり

町民の皆さん、日頃から錦江町のまちづくりに、それぞれのお立場でご参画いただき、厚く感謝申し上げます。

令和7年度の予算説明書「見たい 知りたい まちのしごと」をお届けします。

これは、錦江町の予算がどのような分野にどれくらい使われていくのかを、まちづくりの主体である町民の皆さんにお知らせするために、財政をお預かりしている町政の責任者として毎年発行しているものです。

錦江町では、「すべての人が自分らしく幸せに～人と人、人とまち、人と自然の共生～」という町の姿を目指して、最上位計画である第3次錦江町総合振興計画を本年3月に策定し、「働く世代の元気」「子どもの元気」「高齢者・障がい者の元気」「自然・環境の元気」「地域の元気」の5つの柱で施策を進めています。

今年度は、少子化が進む錦江町において、子育て支援策として、小中学生の教材費支援や修学旅行バス代助成などを新たに実施していきます。また、昨年に引き続き仕事と錦江町暮らしのお試しで移住促進を図るワーケーションを発展させるために、保育園留学や親子山村留学のほか、子育て支援住宅の整備にも本格的に取り組んでまいります。

また、子ども家庭庁や鹿児島県のご支援をいただき、子どもたちや家庭が抱える様々な課題に対して、生活習慣の形成や学習サポート、進路指導相談等を行う児童育成支援拠点事業にも新たにに取り組んでまいります。

産業面では、商工事業者の担い手確保対策として事業承継にむけた調査・支援も行うとともに、畜産業の新たな飼料作物の実証実験や血液検査等を行い、飼養コストの低減を目指す代謝プロファイルテストの拡充、家畜伝染病に対応するための防疫対策も徹底してまいります。

安心して暮らせる錦江町を目指し、今年は地域医療・介護の拠点施設となる肝属郡医師会立病院の移転・再整備事業が本格化し、南大隅町さんと共同で令和9年2月完成に向け、着実に事業を進めてまいります。加えて、これまで町内の事業所や小学校、町民有志の皆様のご協力をいただきながら取り組んでまいりました認知症に優しいまちづくりが評価され、昨年、NHKとNHK厚生文化事業団主催の第8回「認知症とともに生きるまち大賞」を受賞し、今後も高い高齢化や過疎化という社会環境の中で、当事者の社会参画や理解が、更にまち全体に広がっていくよう更なる実証事業を進めて参ります。

そのほか、今年度から大隅縦貫道（吾平大根占田代道路）の工事に着手するとともに、避難所における防災トイレ整備など、インフラ整備や災害に強いまちづくりにも取り組んでまいります。

今年度も引き続き、町民の皆さんと情報を共有しながら、町政に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

令和7年6月

錦江町長 新田 敏郎